

介護の制度を みんなが 良くしていこう！



介護は、いつから“不安”と隣りあわせになったのだろう。
必要な時に必要なだけ、安心の介護を。

医療介護職場で働く みんな あつまれ！

私たちは許さない！

要支援の介護保険は
1割負担から2割負担へ
公的責任後退と自己責任強化
特養入所要介護3以上に原則制限
死に際の覚悟・・・



図の植木鉢は、地域包括ケア研究会が整理した地域包括ケアシステムのイメージです。すまいと生活支援の中で医療・介護・保健のサービス提供がイメージされています。見かけ上はなるほどと思えるかもしれませんが、土台に、「本人家族の選択と心構え」があります。その説明は、「毎日だれかが訪問して様子は見ているが、翌日になったら一人で亡くなっていたという最後は珍しいことではなくなる。常に家族に見守れながら亡くなるわけではないことを、それぞれの住民が理解したうえで在宅生活を選択する必要がある」となっています。孤立死を当然視した「死に際の覚悟」を迫るとともに、安易に「共助」「公助」に頼るな、自助努力をしろと高齢者・国民に求めるものになっています。

12/14 (土) 13:30-14:30

坊っちゃん広場 宣伝行動



今政府は介護保険の改悪を段階的に進めようとしています。そのひどい内容をみんなに知らせていきましょう。利用できない介護保険制度にしてはいけません。よりよい社会保障制度をつくっていかねば、将来にわたって安心安全の暮らしを実現できません。医療現場・介護現場で働くみんなの力で、介護保険制度をよくしようと呼び掛けましょう。